

自分の人権感覚を 見直してみよう

私たちの意識の中には、誰しも少なからず「決めつけ」が存在します。

右の会話を見て、何か気になることがありますか？

例えば、「血液型がA型の方は几帳面だ」とか、「大阪の方はせっかちだ」などと言われることがあります。でも、A型の方の中には、色々なタイプの方がいます。もちろん大阪の方の中にもいろんな方がいます。

- : 「ねえねえ〇〇ちゃん、血液型、何型？」
- : 「何型に見える？」
- : 「う〜ん、几帳面だからA型かなあ？」
- : 「当たり前！ □ちゃんは何型？」
- : 「私も同じA型よ。だから私たちって気が合うのよねえ」
- : 「そうよね。ほかの血液型の人って、やっぱり話が合わないよねえ」

ある物事や集団に対して一面的。つまり、決めつけたイメージを持ってしまっていることはないでしょうか？

血液型、出身地、男か女か、年代（世代）、国、等々。

様々なことに対して、それぞれがイメージを持つことはあります。しかし、そのイメージだけで決めつけてしまったり、こだわり過ぎてしまう考え方は、見直していく必要があります。

決めつけた考え方にこだわってしまうと、正しい判断ができなくなってしまうからです。

自分の中に、決めつけたイメージが存在していないか。そして、それにこだわり過ぎていないか。ぜひ、確認してみましょう。

「血液型が★型だから…」
「乙女座だから…」
「寅年だから…」
「男だから…」
「女だから…」
「若いから…」
「年寄りだから…」
「愛媛の人だから…」
「関西人だから…」
「日本人だから…」
「末っ子だから…」
「長男だから…」
「一人っ子だから…」
「〇〇中学出身だから…」
「〇〇部だから…」

等々



まなざしをかえる

「決めつけ」にこだわらないということは、今までとはちょっと見方を変えるということです。

そのことを、私たちに教えてくれる、金子みすゞさんの「大漁」という詩を紹介します。

浜で人間が、多くの鰯を捕まえたことを喜んでいる。

でも（反対の立場から見てみると）、海の中では、捕まってしまった仲間のとむらいをしている。



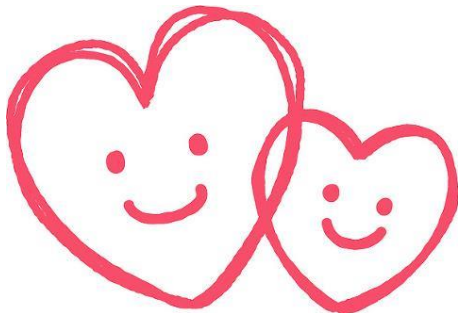
《 ※「とむらい」…死を悲しみ、死者の霊を慰めること。お葬式。》

「自分の立場で見た世界」と、「相手の立場で見た世界」が、同じであるとは限りません。全く違っているかもしれないということを、金子みすゞさんの詩が教えてくれています。

「自分の立場で見た世界」とは、自分中心のまなざしです。自分の中に「決めつけ」があることに気付こうとせずに、相手を自分がとらわれているイメージに当てはめようとします。その人自身（真実）を見極めようとせずに、偏見を持ってしまったり、差別を生むことにつながってしまう恐れがあります。

また、なんでも自分を先にして考えてしまって、相手に対して「なぜ、男なのに、私をもっと守ってくれないの?」「なぜ、女の子なのに、料理を作れないの?」「なぜ…」と、一方的に相手を批判したり、一方的に相手を攻めてしまったりします。相手がどれだけ傷ついているのかに鈍感です。

人にはそれぞれに多様な個性があります。自分以外の人と豊かな関係を築いていくためには、初めからイメージで決めつけるのではなく、対話や交流を通してその人自身の個性を見付けだし、お互いの人権を尊重し認め合うことが大切です。



自分の中に「決めつけ」が存在しないかを、常に意識して、「相手の立場で見た世界」を想像しましょう。そして、「自分の大切さ」だけではなく、「他の人の大切さ」を認められるような人権感覚を高めていきましょう。

次回の放送は、9月21日(水)の予定です。お楽しみに…